

生き生き消防団

より安全で安心して暮らせるまち
～心が通う消防団をめざして～

長野県長野市消防団 団長 羽藤公夫

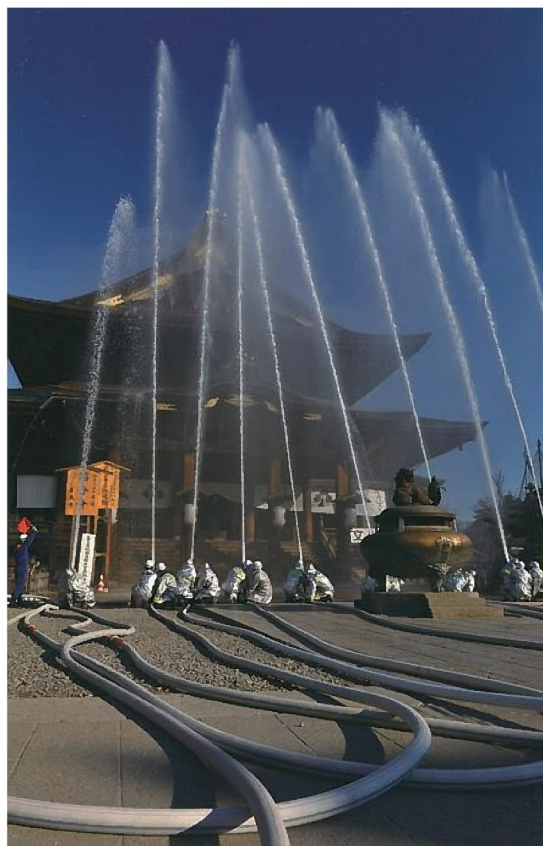
1 長野市の沿革・概要

四方に北信濃の山々を望む長野市は、千曲川、犀川の二大河川が形成した善光寺平を中心に、県都として、中核市として、また冬季オリンピック開催都市として発展してまいりました。平成17年には1町3村、平成22年には1町1村と合併し、市勢をさらに伸ばしました。

また、市内には豊かな自然と貴重な文化が受け継がれ、各地に特色のある歴史と伝統が息づいております。

現在、こうした地域の財産を活かし、年度ごとに市内各地にスポットを当てた観光キャンペーンを実施しております。今年は、篠ノ井地区では、「交流文化のまち」、さらには、信州新町地区では、「アート&グルメ ふれあいの町」の魅力为全国に4月から発信しますので、大勢の皆さまに訪れていただき、その魅力を感じていただければ幸いです。

- ・人口 387,815人（平成22年4月1日現在）
- ・世帯数 152,343世帯（平成22年4月1日現在）
- ・面積 834.85平方キロメートル
- ・特産物 りんご、川中島白桃、そば、おやき
- ・歳時記 長野オリンピック記念長野マラソン（4月）
びんずる祭り（8月）
長野えびす講煙火大会（11月）



国宝 善光寺 文化財防火デー

2 長野市消防団の組織

長野市は、1団74分団及び1音楽隊で編成し、総員は3,670人です。団本部は、団長1人、副団長12人、女性部・機能別消防団員で構成され、副団長はそれぞれのブロック（12ブロック）を担当しています。

装備については、指揮広報車1台、ポンプ車4台、小型動力ポンプ付積載車129台、小型動力ポンプ207台となっています。

3 長野市消防団の活動

(1) 年間行事の主なもの

- 4月 幹部講習会・新入団員研修
緑を火災から守る運動
- 5月 幹部定例会
- 6月 長野市水防訓練
長野市消防団ポンプ操法・ラッパ吹奏大会
- 7月 長野消防協会ポンプ操法・ラッパ吹奏大会
- 8月 長野県消防協会ポンプ操法・ラッパ吹奏大会
- 9月 高齢者を火災から守る運動
- 10月 S-KYT研修、長野県総合防災訓練
- 11月 秋の火災予防運動
- 12月 総合訓練
- 1月 長野市消防出初式、文化財防火デー

- 2月 幹部定例会議、音楽隊定期演奏会
- 3月 春の火災予防運動
- 通年 本部会議、地区祭典等の警戒

(2) 訓練概要

長野市消防団年間行事計画で、年度当初に幹部及び初任者等の消防団員に必要な知識や技術等を身につけるため、教養訓練を実施しております。さらに、出水期を迎える前に、長野市水防訓練に参加しております。

また、訓練等で身につけた知識・技術等を、各分団で実施される教養訓練等で伝達し、迅速・的確に災害対応できるよう実施しております。

※長野市総合防災訓練は、3年に1回実施し、大きく分けて主会場とサブ会場の2箇所で開催しております。また分団独自（各地区）での防災訓練は、毎年実施しております（主なものについては、表1のとおり）。

分団独自（各地区）で実施している主な訓練

表1

	訓練内容等
各分団等の計画による	基本訓練（規律、ポンプ運用、ホース延長、放水等）
	応用訓練（中継送水、水防訓練、総合防災訓練等）



長野市水防訓練



長野市消防出初式

(3) 予防活動

分団独自で、警戒活動、火災予防広報等のもとより、平成19年には、のぼり旗、各戸配布の啓発ちらしの作成等、積極的な火災予防活動を実施する分団には、火災予防活動交付金交付要綱を定め、予算の範囲内で交付金を交付しております。また、女性消防団員は、平成22年度末現在で57人が在籍しており、団本部に所属して防火広報活動をしたり、分団で活動したりと、様々な場所で活躍しております。

また、当消防団では、小さい頃から防火防犯に興味を持ってもらいたいという思いから、防犯協会と毎年交代で、小中学生を対象

とした防火防犯ポスターづくりとポスター展を開催するなど多彩な活動を行っております。

4 今後の組織等の充実強化

長野市では、近年の社会構造、就業形態等により、地域を守る消防団員の確保が全国と同様に難しい状況となっております。消防団員が不足すると、地域の安全・安心が脅かされることから、平成22年10月1日から平成23年3月31日まで、臨時職員2名（入団促進員）を採用。ポスター、リーフレット、のぼり旗等を作成し、市内の企業約1,000社や地区などに入団促進等を依頼するため訪問を実施しました。



女性消防団員 予防活動



幼少年育成指導

5 終わりに

〈現況と課題〉 長野市消防団は、平成22年1月の合併により分団数74、定員3,670人と全国的に見ても大きな消防団となりました。

しかし、近年、災害は多様化、大規模化してきており、広範囲にわたる大きな被害が発生しております。

その対応として、組織的に迅速な対応をする

ため、団本部及び方面本部を早期に立ち上げる必要があることなどから、市内6方面に区分し災害現場で指揮する方面隊長を置き、さらに方面隊を総括する副団長を団本部に配置し、団長を先頭とする組織の体制を早期に構築することとなりました。

今後も、地域に根付いた消防団活動のさらなる充実をめざして参ります。



ポスター



リーフレット